



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	新疆における農村産業構造が農家収入に及ぼす影響について
Author(s)	祖力菲婭, 買買提
Citation	農業経営研究, 29, 31-39
Issue Date	2003-02
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/36585
Type	departmental bulletin paper
File Information	29_31-40.pdf



新疆における農村産業構造が農家収入 に及ぼす影響について

祖力菲婭買買提

1. はじめに
2. 現状と問題
 - 1) 新疆農家収入の概況
 - 2) 新疆農村住民の平均一人当たり純収入の構造から見た農村産業構造
3. 疆農村産業の優位性
 - 1) 果樹業の優位性
 - 2) 農区牧畜業の優位性
 - 3) 新疆牧畜生産物の優位性
 - 4) 郷鎮企業の発展による農産物加工の展開
4. まとめ

1. はじめに

近年、中国において農産物の供給が持続的に増加しているにもかかわらず、農家収入は増加せず基本的に停滞状態にある。この状況は、中国で大半を占める農家の生活水準と農業拡大再生産能力、そして都市住民と農村住民との間に存在している収入格差に関連している。農家収入の中で貨幣収入が占める割合は1978年の40%から1999年には70%に達しており、貨幣収入の多少は国民経済の需要水準にも影響を及ぼす。中国は人口が多く、農地が少ないため、農産物の供給は人口増加を1.0~2.0%上回る速さで引き続き増加させる必要がある。国際的な経験では、一つの国の農産物供給は絶対不足段階を脱出すると、次の課題は、どうやって農家収入のレベルを安定的に引き上げるかに移ってくる。現在、中国の一部の地域はまさにこの農家収入を向上させる段階にあると考えられ、政府は農家収入の継続的増加と農産物供給の確保と言う二つの政策目標を求められている。実際、政府は二十世紀末における一人当たり農産物の生産量と農家の生活水準目

標を確定した。すなわち、農産物は毎年2%以上、農家収入は毎年5%以上の増増を目標とした。しかし、この計画目標を実現するのは容易ではない。中国の農村は構造調整政策を中心として発展している段階にあり、農産物の供給と農家収入を増加させつつ産業構造のバランスを保持して行くのは、農業政策を実施する上で困難な問題となっている。

本稿は新疆農業を対象に、こうした展開下における農村産業構造の現状と農家の収入停滞の要因、及び新疆経済の特性を分析し、農家収入増大の方策について考察したものである。

2. 現状と問題

1) 新疆農家収入の概況

新疆農家収入の水準を図1から見ると、名目収入の継続的な増加と実質収入の停滞状態を見て取れる。名目収入を見ると、1978年の119元から1998年には最高水準の1600元になり、12.4倍に増加した。しかし、増加率は大きく変動している。改革開放の初期には増加率は高く、90年代の市場経済への移行期においては大きく変動している。一方、実質収入を見ると、1985年以降、90年と97年を除き停滞状態にある。その他、新疆における農家収入の成長状況に関しては次のような特徴がある（注）。

（1）南北地区の農家収入の格差が継続的に拡大している

表1で示したように増加の幅Ⅱは増加の幅Ⅰより大いに高い。これは新疆各地域の名目収入が1993年から大幅に増加したことを表す。しかし、南北新疆各地域の間に相変わらず一定的な差異が存在している。増幅Ⅰのうち、北新疆に属する四地区の平均増幅は38%であったが、南新疆に属する四地区の平均増幅は43%であり、北新疆よりやや高かった。一方増幅Ⅱでは、北新疆四地区の平均増幅が131%となり、南新疆四地区の平均増幅91%にくらべ40%高かった。そのような差違が見られた理由として南新疆の農業経営構造をあげることができる。この間、綿の価格が大幅に下落したのだが、綿生産に特化した経営の多い南新疆では、その影響を大きく受けたものと思われる。1998年、南新疆の喀什などの地区の農家収入が低く一千多元となったが、北新疆の昌吉州、塔城地区の農家収入は二千多元となった。

（2）都市住民と農村住民の収入格差が継続的に拡大している

自治区内における農家収入の地域差を見ていくと、1989年の都市と農村の収入

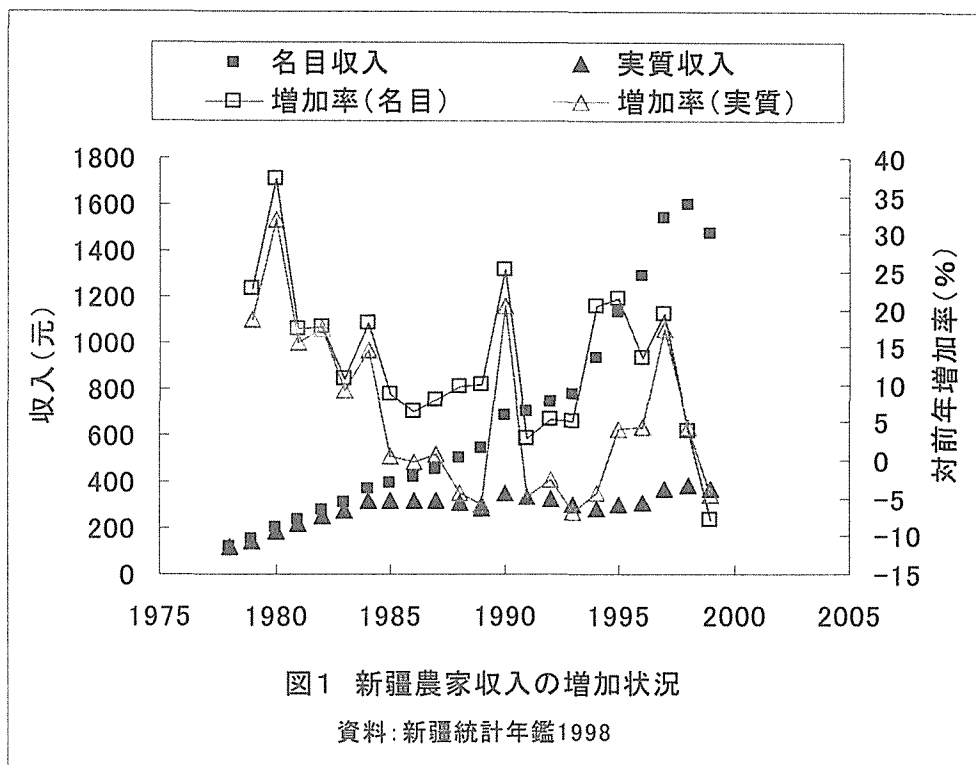


表1: 南北新疆一部地域農家収入の変化情況					単位: 元		
地 区	1989年	1993年	1998年	増加の幅 I (%) (1993 / 1989)	平均 増幅	増加の幅 II (%) (1998 / 1993)	平均 増幅
自治区	546	778	1600	42.49	—	105.66	—
北 昌吉州	697	1127	2566	61.69	38.46	127.68	131.06
部 伊犁地区	605	769	1663	27.11		116.25	
地 塔城地区	653	966	2603	47.93		169.46	
区 阿勒泰地区	655	767	1617	17.10		110.82	
南 巴州	649	935	2048	44.07	42.54	119.04	90.5
部 阿克蘇地区	521	693	1601	33.01		131.02	
地 喀什地区	474	720	1076	51.90		49.44	
区 和田地区	357	504	819	41.18		62.50	

注: 暦年の『新疆統計年鑑』より作成

格差は 2.24 : 1 であったが、1993 年には 2.84 : 1、1998 年には 3.21 : 1 に拡大した。1999 年に国家は国内需要を拡大するために、収入分配政策を調整して、都市の各従業者の給料を高めた。そのため都市と農村の収入格差はさらに拡大して 3.69 : 1 に達した。

(3) 全国水準との格差が拡大している

1999 年における全国農家の一人当たり純収入は 2210.3 元で、昨年より 48.4 元増加し、2.2%成長した。また、価格を下げている要素を除いて算出すると、実際には 3.8%成長している。全国の各省・市・自治区における大部分の地域で農家収入は緩慢に成長しているが、山西・遼寧・吉林・黒龍江・新疆の五省ではマイナス成長となっている。新疆は一人当たり純収入が五省のなかで最も低い上に、この 1 年での減収幅も最大となっている。全国の平均水準と比較しても、その格差は 582 元から 737 元へと拡大した。

(4) 農家の純収入の中で貨幣収入が下がり、実物収入が増えた

農村経済が市場化するに従い、農民収入と市場との関係は日々密切になってきた。市場農産物の価格が全面的に下落した影響で、1999 年の新疆農家一人当たりの貨幣収入は 2174 元となり、1998 年より 570 元減少した。現金純収入は 1998 年の 995 元から 856 元になって、139 元減少した。純収入に占める比重も 62%から 58%に下降した。すなわち農家の純収入のうち、貨幣収入が減少して、実物収入が増加した。

(5) 実質収入は増加していない

図 1 からは、農家の名目収入は増加を続けているものの、生活物資及び生産資材の物価も上昇しているため、農家の実質収入の成長は停滞している。

2) 新疆農村住民の平均一人当たり純収入の構造から見た農村産業構造

新疆農村住民の平均一人当たり純収入の構造(表 2)を見ると、第一次産業すなわち農業生産から獲得した収入に大きく依存していることがわかる。また、その農業生産の中でも、栽培業の比重が 70%以上を占め、他の牧畜業や林業の比重が非常に小さい様子が見て取れる。さらに表 3 において、農家収入の水準を他の省、全国の平均水準と比べると、新疆の順位は明らかに後退していることが分かる。新疆の都市住民と農村住民の比較においても、現在 3.69 : 1 で、農村住民の収入は都市住民の収入の 27%程度となっている。

表2: 新疆農村住民の平均一人当たり純収入の構造

単位: 元

項目	構成	1985年	構成	1995年	構成	1998年
平均純収入	100	394.30	100	1136.45	100	1600.14
収入出所によって						
労働者報酬	12.54	49.45	5.68	64.57	5.30	84.78
家族経営純収入	84.52	333.25	85.14	967.59	90.01	1440.35
(1) 栽培業収入	76.18	253.89	71.51	691.97	78.06	1124.38
(2) 牧畜業収入	10.43	34.75	12.31	118.98	8.29	119.36
(3) 林業収入	1.44	4.79	2.88	27.88	1.23	17.66
(4) 他の収入	11.95	39.82	13.30	128.73	12.42	178.95
移動性と財産性収入	2.94	11.60	9.18	104.29	4.69	75.01
収入の性質によって						
生産性純収入	96.42	380.17	88.47	1005.38	93.98	1503.79
(1) 第一産業収入	81.37	309.33	86.45	869.11	85.27	1282.35
(2) 第二産業収入	1.34	5.09	0.50	5.06	0.41	6.16
(3) 第三産業収入	4.29	16.30	6.92	69.61	8.68	130.50
非生産性純収入	3.58	14.13	11.53	131.07	6.02	96.35

注: 『新疆統計年鑑1998』より作成

表3: 中国における新疆農民収入水準の次位の変化

年分	農民収入(元)			順位
	新疆	全国	新疆—中国	
1978年	119	54	65	3
1980年	201	195	6	10
1985年	394	397	-3.3	14
1995年	1136	1421	-285	17
1998年	1600	2114	-514	25

注1: 『新疆統計年鑑1998』より作成

注2: 中国には22の省、5つの自治区、4つの直轄市がある

農村産業構造について、以下に問題点を四つあげる。

第一に、新疆農村産業の構造は栽培業に大きく偏っており、単一である。特に第二次産業の進展はなく、農産物の付加価値を高める事も困難になっていると言える。また、多くの農産物の品種が単一であるため、市場における競争力も低い。農産物の販売が困難になっている一方で、一部農産物の需要は移入や輸入によって満たされているという構造的な矛盾がある。さらに農業生産に従事している農村労働者は非常に多く、90%以上を占めており、潜在的失業者が多い。農業センサスによると、491万人いる新疆農村労働者の中で、過剰労働者は170万人に達し、総数の37.4%を占めている。生産に関する指標は全国でも上位であるが、利益に関する指標は下位になっている。たとえば1999年の以下の指標をあげることができる。

・一人当たり綿の生産量	全国第一位
・一人当たり穀物の生産量	全国第六位
・一人当たり甜菜の生産量	全国第四位
・一人当たり食物油の原料の生産量	全国第七位
・一人当たり純収入	全国第二十五位

第二に、牧畜業の発展が遅れている。世界農業の展開を見ると、牧畜業の成長がなければ農業の発展は面的で低水準なものとなっている。新疆の牧畜業は現在も伝統的な生産方式を主としており、経営は分散し、規模が小さく、そのため競争力が低いなどの状況が続いている。中国で二番目に大きい牧畜区と言う地位であるにもかかわらず、牧畜業の収入は全体の10～20%である。

第三に、果樹業はいまだに「副業」の地位にある。新疆の葡萄、梨、メロン、石榴などの果物は国内国外を問わず有名であるが、果樹業の潜在的市場力に対し十分な認識がなく、生産を続ける過程で、化学肥料の多投などにより、質を損なう事例も多く見受けられる。果物とドライ・フルーツの加工水準は低く、貯蔵量、貯蔵条件、運送条件に課題がある他、保鮮技術も遅れており、保鮮期限をあまり長くできないなどの問題が存在するため、果樹業の発展と農家収入の成長が制約されている。

第四に、農村における第二次、第三次産業の発展が遅れている。現状は以下のようになっている。

・第二次、第三次産業の生産額は農村総生産額の中で25%を占め、全国の35%より低い。

・第二次、第三次産業に従事する農村労働者は10%に満たない。

・兼業経営水準が低い。たとえば：

先進国：50～70%，中国：37.2%，新疆：11.3%

また、現段階では郷鎮企業の数が少なく、国民経済中にある比重も小さいため、農村経済発展の担い手を郷鎮企業に求めることはできない。

3. 新疆農村産業の優位性

1) 農区牧畜業の優位性

新疆農区における飼料生産量は、例1年トウモロコシ300万トン、ワラ類1000万トン、牧草（ウマゴヤシ）等は70万トンである。栽培業と牧畜業を結合し、農区で牛、羊などの肥育を展開し、牧畜業の割合を高めることが出来ると考えられる。

2) 新疆牧畜生産物の優位性

- ・羊毛： 全国生産量の四分の一を占め、輸入品に代替されている
- ・カシミヤ：全国生産量の五分の一を占め、輸入品に代替されている
- ・牛乳： 質はよい、競争力も高い
- ・肉： 牛、羊の肉は上質である
- ・原皮： 他の地区の中、小企業の需要量が多い

以上のように新疆牧畜生産物には一定の有利な条件が存在している。しかし、生産量が限られており、これらの優位性を発揮できない状況にあると言える。

3) 果樹業の優位性

新疆では日照時間が長く、積算温度が高く、生育期間が長いことなどから、特に優れた品質の果物生産が可能である。また、果物は市場では代替不可性があるため、偽物防止の効果があり、独占を実現しやすいなどの特徴を有している。単位面積当たり生産額は、穀物の4.52倍、一般的作物の1.86倍になっている。こうした状況により、農家によっては多大な利益をもたらすこともできると考えられる。特に自然資源は以下のような優位性がある。

光合性有効輻射：65～75 千 Kcal/cm²・年（南新疆と東新疆）

平均日照時数： 2800～3500 時間

年積算気温： 2600～5000℃

無霜期： 140～230 日

4) 郷鎮企業の発展による農産物加工の展開

第二次、第三次産業は農産物の付加価値を高める重要な手段である。とくに、郷鎮企業は農村の過剰労働者に兼業の機会を提供でき、農家収入を増加させる重要な役割を担う。農村の豊かな農産物原料を利用して、郷鎮企業が農産物加工業を発展させることは、新疆にとって有利である。実際の成功事例を以下紹介しておく。

トルファン地域の干し葡萄を選び抜きして包装すれば価格は2倍になる。干し葡萄で作ったチョコレート葡萄などの加工品の価格は5～8倍になる。ハミ地域のメロン、杏で作った砂糖漬けの価格は10倍になる。石榴、人參など果物、野菜で作ったジュースの価格は6～9倍になるなど。

しかし、今の新疆郷鎮企業は資金が不足、生産設備が古い、生産技術が遅れているなどの原因で発展総水準は低く、この優位性を十分に利用できていないという状況である。

4. まとめ

新疆における農業経済を一層発展させ、農家の収入及び生活水準を向上させるためには、農村産業構造の改善が必要だと言える。具体的に行うべき事が多い。そのうち特に重要な点は：

1) 牧畜業の発展を重視すること

牧畜業の発展を重視する。牧畜業を栽培業と同様に重要な地位に置き、牧畜業の比重を高めると同時に、飼料生産も重視し、栽培業と牧畜業を互いに補完、促進する役割を発揮させ、草原牧畜業、農区牧畜業と郊外牧畜業を並行して進めるべきである。さらに、伝統的牧畜業の改善、品種の改良、牧畜群の構造調整などを行い、大規模な専門経営を形成させていくことで、農家収入の増加図っていく必要がある。

2) 栽培作目を見直すこと

果樹産業を「副業」としての地位から脱却させること。総合的な組み合わせを考慮して栽培作目を見直すこと、すなわち穀類、綿の需要を保証するかわりに、それらの面積を縮小し、国際的な競争力を持つ果樹園芸業の比重を高めることが必要である。たとえば北新疆では穀類生産の安定化、綿栽培面積の減少、南新疆で

は綿生産の安定化、穀類作付面積の減少といった対策をとり、変わりに果物、野菜など各地域の実情に見合った作物を栽培することで、農民収入の増加を図ることが必要である。

3) 生産・加工・販売の一体化を実現すること

郷鎮企業をいっそう発展させ、農産物加工事業を展開すること。郷鎮企業の資本、技術、販売力、経営管理などを定期的に改善し、総合的に発展させる。生産・加工・販売の一体化を実現する必要があると考えられる。たとえば、果樹業生産物、野菜などの加工・保鮮・貯蔵・包装・運送などを一体化させ、付加価値効果を高めることなどである。

(注) 本稿の詳細な分析に関しては、祖力菲婭〔6〕を参照のこと。

引用・参考文献

- 〔1〕 杜鷹「農民収入農業増長与市場發育」『20世紀90年代中国農業發展論』中国人民大学出版社，1993
- 〔2〕 綦群高等「關於加快發展新疆高產優質高効農業的若干建議」『新疆農村經濟』新疆農業經濟学会，1999（3）
- 〔3〕 陳彤等「新疆農業和農村經濟發展的總体思路」『新疆農村經濟』新疆農業經濟学会，2000（1）
- 〔4〕 殷新江「關於增加農民収入の思考」『新疆農村經濟』新疆農業經濟学会，2000（4）
- 〔5〕 潘玉珍「新疆農民収入成長的難点及对策選択」『新疆農村經濟』新疆農業經濟学会，2000（2）
- 〔6〕 祖力菲婭買買提『新疆農民增收問題研究』，2000